

根治につながる新薬も

病院の実力

～北海道編 209

神経難病

今回の病院の実力は神経難病を取り上げる。一覧表には主な病気の年間患者数や常勤専門医の数などを載せた。

難病とは、原因不明で治療法が確立しておらず、患者数が少なく、長期の療養が必要な病気のことをいう。神経難病は、脳や脊髄に存在する神経細胞に異常が起きたり、減少したりすることで、認知機能や運動機能が低下する病気の総称だ。

神経難病で最も患者数が多いパーキンソン病は、10万人あたり150人前後とされる。主に50歳以上で発症し、高齢になると罹患率が上がる。手足が震える、筋肉が硬くなる、全身の動作が鈍くなるといった症状がある。一覧表ではパーキンソン病、重症筋無力症、多発性硬化症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症(ALS)の五つの主な神経難病の年間患者数や、筋ジストロフィー、脊髄性筋萎縮症など小児(18歳以下)の神経難病の年間患者数を示した。

このほか、経験豊富な専門医が認定される日本神経学会の神経内科専門医や、日本小児神経学会専門医の常勤医数も掲載した。専門医の数は、より正確な診断や最新治療につながる体制を知る手がかりとなる。近年は原因の特定や発症

のメカニズムの研究が進み、症状の緩和などの対症療法しかなかった神経難病にも、根治が期待できる新薬も登場している。専門医による正確で速やかな診断の重要性が増している。

全国の調査結果は19日の「からだ」面に掲載しました。

病院の実力「神経難病」
医療機関別2024年治療実績(単位は人)
(読売新聞調べ)

医療機関名	主な病気の年間患者数	神経内科専門医(常勤)◆	子どもの年間患者数	小児神経専門医(常勤)◆
国・北海道医療セ	963	7	6	1
市立函館	948	1	6	0
帯広厚生	766	3	250	0
北海道大	570	—	50	2
札幌西円山	492	7	0	0
北斗	352	1	0	0
市立札幌	340	2	0	0
札幌白石記念	147	3	0	0
函館新都市	143	1	0	0
札幌医大	118	9	36	2
済生会小樽	113	4	0	0
手稲溪仁会	54	3	30	0
道立子ども総合医療・療育セ	25	0	175	1
札幌市子ども心身医療セ	0	0	14	3

◆今年4月現在
「国・」は国立病院機構、「セ」はセンター、「—」は無回答または不明